

ちば里山新聞

(第 48 号)
 編集発行 NPO 法人ちば里山センター
 袖ヶ浦市長浦 2 号 580-148
 ☎ 0438-62-8895
 題 字 倉島 貴浩
 (ワークホーム里山の仲間たち)

ちば里山新聞は千葉県からの事業委託を受け、特定非営利活動法人ちば里山センターが編集発行しています

フォローアップ研修進む

里山カレッジ 県民の環境活動支援事業の一環で

ちば里山カレッジフォローアップ研修が、9 月と 10 月に開催されました。これは県民の環境活動支援事業の一環として 6 月から実施されているもので、12 月までの計 4 回コース。

竹炭の製造に熱い視線

9 月 6 日は、「竹炭製造とロープワーク」。午前の「竹炭づくり」の講師はNPO法人竹もりの里の鹿嶋與一代表理事。ステンレス製の直径 1500 mmの無煙炭化器に粉砕機でチップ化した孟宗竹を投入して順次燃焼させ、およそ3時間後に放水による消火で竹炭が出来上がりました。「無煙炭化器は炭化に不可欠な高温状態と酸欠状態を実現。未燃焼ガスを完全燃焼するため、短時間で煙を出さずに大量の炭が生成できる。」との説明があり、製造コストや販売ルート、粉砕機の共同購入などに関して活発な質問が相次ぎました。粉砕機の粉砕能力は1日に 40~50 本。竹粉は主に土壌改良剤として効果を発揮し、トマト農園、レンコン農園、養鶏用飼料としての利用が進んでいるとのこと。(写真④=出来上がった竹炭と粉砕実演)



難しい！ロープワーク

午後の「ロープワーク」は、森林インストラクターの山口照講師による講義と実習が行われました。実習では、里山遊びでのブランコ作りに有効な“あぶみしぼり”や荷物の運搬に適した“トラック結び”を実習しました。手の込んだ結び方になると、「一度では覚えられない」とつぶやきながら受講生が手や頭をひねる光景が見られました。



(写真⑤=ロープワーク実習)

「野生キノコ」と「人工栽培」

第 3 回目のフォローアップ研修は、10 月 29 日(土) 千葉市昭和の森で開催されました。千葉県菌類談話会の降幡治幸講師から「里山のきのこ」についての講義とフィールド研修を、千葉県森林インストラクター会の鶴見治講師から「きのこの栽培について」、「きのこの放射能汚染について」についての講義を受けました。



受講生からは、「身近にある野生キノコの楽しさと安全な付き合い方、あるいはシイタケ人工栽培マニュアルについて、その背景や根拠を含めて理解することが大切であると痛感しました。」などの感想が述べられました。

(写真⑥=キノコの分類)

(写真⑦=栽培についての講義)



ちば里山LIFE体験交流事業

地域の誇りと日々の生業

10月8日 里山地域の魅力PRセミナー

里山地域の魅力PRセミナーが、平成28年10月8日(土)に君津市内みのわ運動公園市民体育館において、鴨川市の道の駅「みんなみの里」の事務局長である清水宏氏を講師に迎え、開催されました。地域の里山団体の連携の盛り上がり



背景にきみつ里山活動ネットワークと連携して開催したもの。全体テーマは「君津の里山の賑わい」。(写真)



清水講師は、「地域の誇りと日々の生業を売る」をテーマに、道の駅『みんなみの里』の運営の事例を紹介しながら、「地域の発展は、特別なことではなく地域の日常にこだわるこそが大切です。」と強調しました。

食の見方を変えてませんか？

10月22日 里山地域の魅力PRセミナー講演会

「食の視点から里山の魅力を語る」講演会が、10月22日(土)午前10時から木更津市中央公民館会議室で開催されました。現在進行中の「ちば里山LIFE体験交流事業」のうちの「里山地域の魅力PRセミナー」の2回目として実施されたもの。講演者はシニア野菜ソムリエで「千葉の野菜伝道師」をつとめる高原和江さん(写真⑤)。

高原講師は、理事長を務める「NPO法人いすみライフスタイル研究所」が行っている様々な活動—いすみ地域への移住・定住促進のための田舎暮らし体感ツアーや農業イベント企画、食情報の発信、食ブランドプロデュース、映像製作など—について説明し、さらに、「市民マーケット」は、食・雑貨の販売のほかエコワークショップでふるさとの味づくりを体験できるとあって毎月200人～400人が訪れ、地域の魅力を再発見し、同時に市民交流ができる場となっていることを紹介しました。そして、「食ブランドプロデュース」については、「食に対する視点を変える」という提案をしました。見る角度が変われば感じ方、発する言葉も変わり、新たな発見につながるの



ので、そうした意識の変革を大切に考えようというもの。

例えば、野菜の栽培、収穫、観察を体験すると、それまで野菜に持っていたイメージや感じ方が多少変わるし、キュウリの飾り切り、カットひとつでいままでと違う食感が楽しめ、食の可能性が開けると強調しました。

最後に、参加者に色、果肉、味が違う3種類のミニトマトを食べ比べてもらい、その感想

を聞いたところ、それぞれに味覚の表現が異なりました。人によって自由な食の楽しみ方があっていいという結論になりました。

(写真⑥=種類の違うミニトマトをじっくり味わう参加の皆さん)



竹や木の伐倒・木材市場見学

ちばの里山づくり体験モニター宿泊ツアー

ちば里山LIFE 体験交流事業のひとつ「体験モニター宿泊ツアー」が、9月24・25日に行われました。コースは、袖ヶ浦市⇒市原市⇒鴨川市⇒長南町⇒東金市。大学生を中心に27名が参加しました。

9月24日は袖ヶ浦市の里山センターに集合し、まず市原市・ジャックの森で、おとずれ山の会の指導で竹の伐採体験。一人一本の伐倒を体験しました。(写真⑥)

そのあと千葉県緑化推進拠点施設の樹木栽培地を見学し、大山千枚田に移動。収穫を終えた田と傍らで咲くヒガンバナの対照が織りなす千枚田の美しい風景を満喫しました。



宿泊は内浦山県民の森。翌25日は、早朝から一般社団法人もりびとの活動フィールドに移動し、スタジイの大木伐倒と起伏がある里山を見学しました。(写真⑦)

昼食後、千葉県木材市場に移動し、スギ、ヒノキ、サワラ、イチヨウ、クスノキ、ケヤキなど加工前の原木に触れた後、「木と住まいの情報館モクイチ」で在来工法による木造住宅の施工例、モデルルームの展示を見学しました。

(写真⑧)

“世界一重い木”に歓声♪

森林総合研究所を見学

11月15日、つくばの森林総合研究所の見学会が、ちば里山センター理事会の主催で行われました。17名が参加。

まず、「植物の遺伝的多様性」「生物多様性及び獣害対策」「森林施業技術」をテーマに、3名の研究員からの講義があり、そのあと施設を視察。世界中の樹木(2万数千種類)を集めた標本庫では、最も重い木とされる「リグナムバイタ」を抱えて歓声を上げました。さらに、様々な樹種が植えられた樹木園を観察しました。

ちば里山センターでは森林総合研究所からの「関東の里山団体と交流を持ちたい」という呼びかけを受け、ちば里山センターの総会後に森林総研 千葉幸弘研究コーディネーターの講演をお願いしお話をいただきましたが、さらに今回の視察会につながったものです。今後も森林総研とちば里山センターおよび里山団体との交流が期待されます。



木の葉のしおいをプレゼント



エコメッセ 2016 in ちば

「第 21 回エコメッセ in ちば」9 月 22 日(木・祝)幕張メッセ国際会議場で



開催されました。今年のテーマは「子どもたちが楽しく、体験、学ぶ」で、ちば里山センターのブースでは“クイズこの葉なんの木”を実施しました。パネル展示と最新のチラシを来場者に配布し、里山相談、安全講習、里山カレッジ・フォロアップ研修、ちばの里山 LIFE 体験交流事業の募集を行いました。里山環境学習



として、木の葉をラミネートしたものを展示し、樹木の名前を当ててもらい、正解者に木の葉のしおいをプレゼントしました。

ちば里山センターブースでは
葉っぱクイズ、木の実リース、クロモジスプレー
などお待ちしております♪



安全を見直す 里山活動は「安全」に行われることが前提です。いったん事故が起きてしまうと、活動そのものが継続できなくなりかねません。「安全作業」の基本となるポイントを連載でお届けします。

<その1> 「朝礼」「終礼」をきちんと行おう

作業の前には、必ず「朝礼」を行い、その日の作業や段取りなどをしっかり周知することが大切です。体調確認、準備体操などと併せ、習慣化しましょう。

よく、到着した人から思い思いに作業を始めてしまうような場面が見受けられますが、安全面はもちろん、作業の進捗把握や効率の面で問題です。また、予定していなかった作業を突然始めたりするのも大いに危険です。

作業が終了した時は、「終礼」を行い、作業状況や作業者の健康状態を確認し、次回の予定等について確認することが必要です。

〜〜編集後記〜〜 ◆今年は紅葉が、やたら早いし散るのも早いと思っていたら 11 月 24 日に雪が降った。11 月に雪が降ったのは 54 年ぶりといひ、やはりどこか地球に異変が起きているのかも知れない。◆風邪が流行ってきたようだ。私はここ 10 数年風邪をひいていないが里山活動のおかげと思っている。せつせと森へ行こう。それが風邪をひかない秘訣かも知れない(K.T)

里山の風にゆられて ④



ホソバノハマアカザ あかざ科

千葉県小櫃川河口には東京湾最大の盤洲干潟が広がり、そこには貴重な塩性植物がたくさん群生しています。

写真はハマツナの中の立つホソバノハマアカザで何れも多肉質で塩分に耐える構造となっています。

干潟の環境保全のため「盤洲干潟をまもる会」が長く活動を続けられています。

(写真・文 赤松義雄 H28.10.27 盤洲干潟前浜にて)

訃報 謹んでお悔やみ申し上げます

風間俊雄 様 (77 歳) ちば里山センター理事 11 月 22 日ご逝去

入会申し込み・問い合わせ先

特定非営利活動法人 ちば里山センター

〒299-0265 千葉県袖ヶ浦市長浦拓 2 号 580-148 ☎0438-62-8895 FAX0438-62-8896 (平日 9 : 00~17 : 00)

E-mail info@chiba-satoyama.net HP <http://www.chiba-satoyama.net>